

漁海況月報

令和5年7月31日

愛知県水産試験場 漁業生産研究所

1 海況

○ 黒潮流路

7月28日の人工衛星画像によると、黒潮は大王崎沖北緯30度付近から御前崎沖北緯34度付近まで北上するAs型流路となっている。

○ 渥美外海の状況

現在、黒潮系暖水が遠州灘沖北緯34.5度付近まで波及している。その結果、遠州灘沖は高温傾向が続いている。伊勢湾湾口から御前崎までのごく沿岸は、比較的低温となっている。

○ 予想

黒潮は今後も最南下位置から御前崎～石廊崎～北上するAs型流路が継続すると考えられる。また、遠州灘沖合への暖水波及も継続すると考えられるため、遠州灘沖合の表層水温は高水温傾向が継続する。一方で、現在、黒潮流量の指標となるトカラ海峡（名瀬－西之表）の潮位差は高い水準で推移しており、勢力の強い黒潮本流が遠州灘へ接近した際には、湧昇が生じて一時的かつ局所的に低温となることが予想される。

(参考：潮位データを用いた黒潮モニタリング；<https://ovd.aori.u-tokyo.ac.jp/tides/time2.html>)

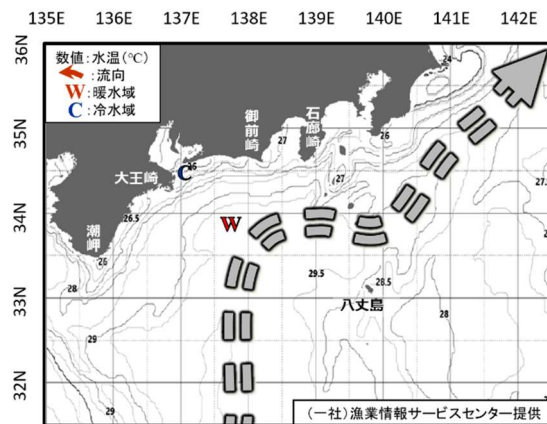


図1 海況の現況[2023年7月28日]

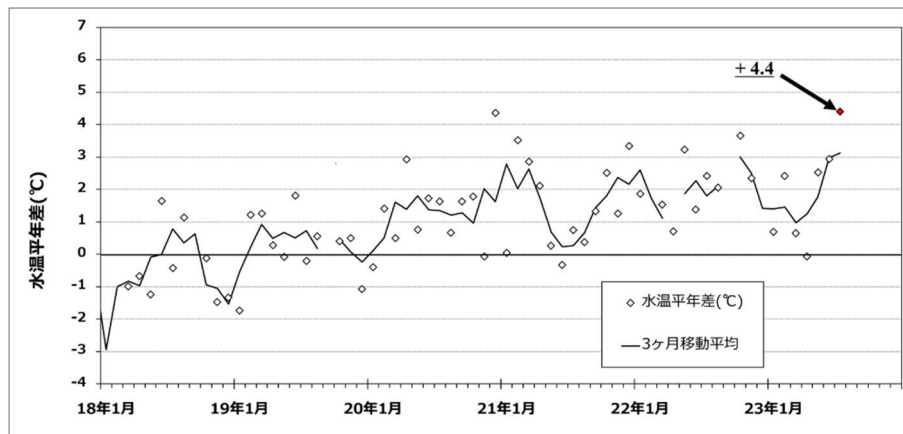


図2 沖合域の水温 (A11点、A19点の200mの平均)

2 イワシ類

(1) シラス

7月は、6月に引き続き、内湾に漁場は形成されなかった。外海では、黒潮の流路がAs型で安定し、漁場が形成しにくい海況が続き、散発的な漁場形成に留まった。

しらす船びき網（10ヶ続以上）の7月の出漁（7月28日時点）は、連続した出漁はなく5日間で、漁獲量は102トンとなり（表5）、CPUE（1日1ヶ続あたり漁獲量）も20カゴを下回った（28日は出漁隻数が少ないため高いが、出漁隻数を他の日と同じとすると、20カゴを下回った）。

シラスの全長（7月28日）は、3cm未満の小型魚が中心で、7月中はこの傾向が続いた（図4）。

シラスの餌環境の指標となるクロロフィルa濃度は、伊勢湾（7月12日時点）では平年（2018～2022年の平均値）並みであった（図5）。

卵・稚仔魚の採集数は、伊勢・三河湾では、カタクチイワシ卵は2,178個で、平年（1,567個）を上回り、仔魚は275尾で、平年（366尾）及び昨年（530尾）を下回った。外海では、カタクチイワシ卵は130個で、平年（122個）並みで、仔魚は250尾で、平年（104尾）を上回った。

内湾では、卵は湾口部を中心に、湾奥部及び三重県側にも多く分布していたが、外海では仔魚は漁場となりにくい、やや沖側に多く分布していた（図6、表3、4）。

漁獲されたシラスは、全長が3cm未満と小型魚が多く、内湾から流出したシラスと考えられる。黒潮流路はAs型で推移し、遠州灘の潮流は強い東向きの流れとなっている。調査結果では、シラスは外海沖に分布しており、湾外へ流出したシラスが沖側を輸送され、漁場が形成されなかったことも、漁場形成が散発的となった要因の一つとして考えられた。

7月下旬以降、黒潮の北上部が東進し、外海で強かった東向きの流れが弱まり、これまでよりは漁場が形成しやすい海況となりつつある。内湾の産卵状況や餌料環境も悪くないため、シラスの生残状況がよければ、湾外への流出後、外海での漁場形成が期待される。また、内湾でも引き続き降水量が少なければ、シラスの流出が防がれ、

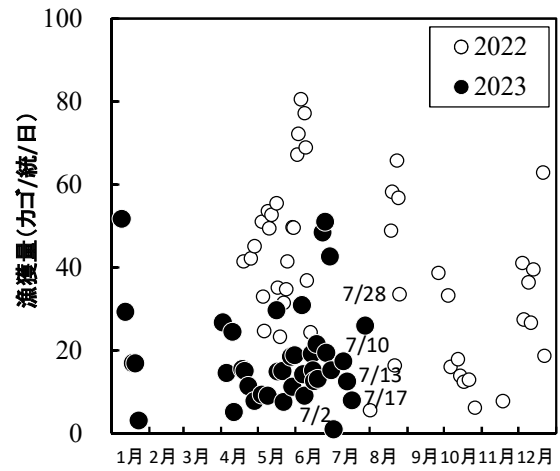


図3 CPUEの推移

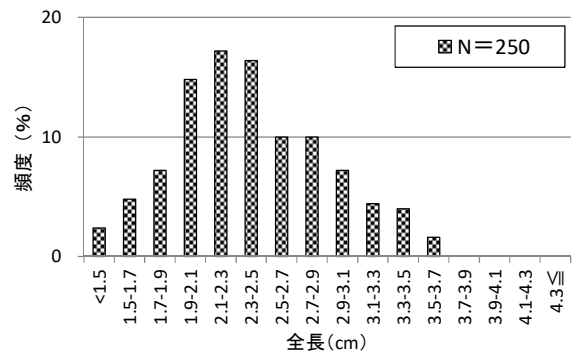


図4 カタクチイワシシラスの全長組成（7月28日）

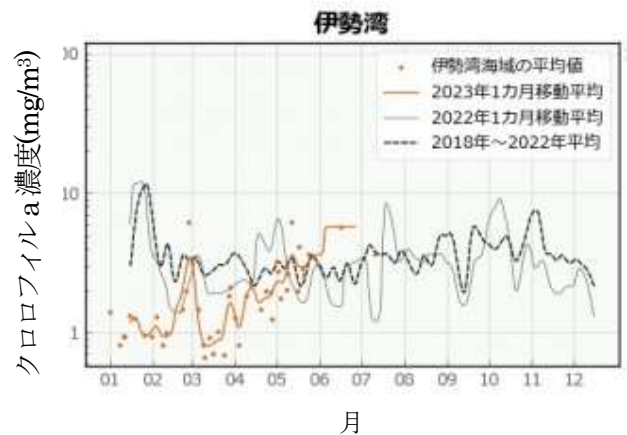


図5 伊勢湾のクロロフィル濃度

漁場形成が期待される。

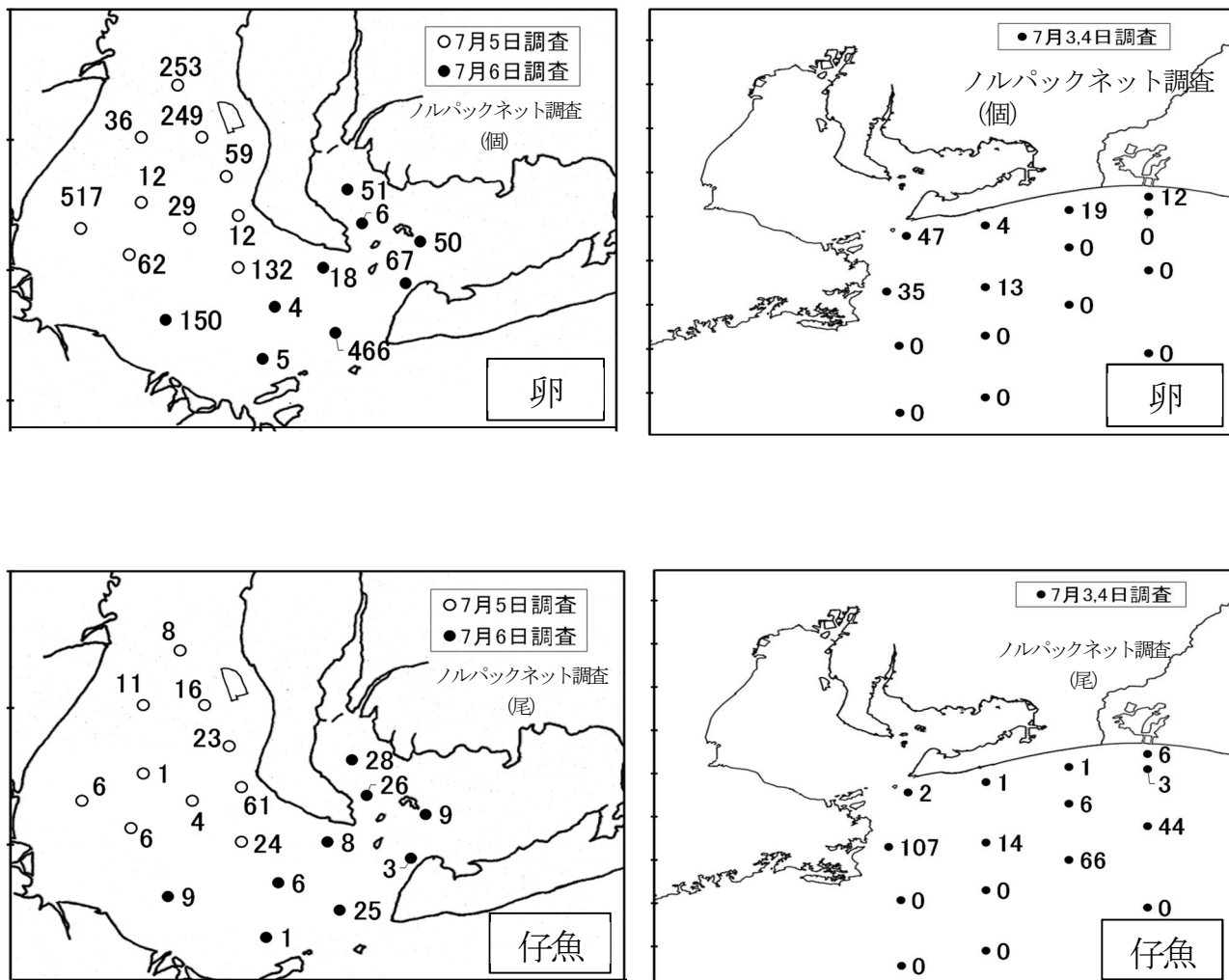


図6 カタクチイワシの卵・仔魚の採集状況
(2023年7月3,4,5,6日)

(2) マイワシ・カタクチイワシ (成魚・未成魚)

ぱっち網は、操業開始時期を遅らせることで魚体重の大型化を図っており、今年
は7月24日(去年は7月20日)から操業を開始した。また、資源保護のため三河
湾は禁漁区とし、伊勢湾から操業を開始している(昨年と同じ管理手法)。

漁獲物は、カタクチイワシ主体でマイワシは混獲程度であった。

カタクチイワシのCPUEは24日(17トン/日/統)、27日(21トン/日/統)共に
高水準であった(図7)。

7月28日時点のカタクチイワシの漁獲量<速報値>は、908トン(去年532ト
ン、過去10年平均3,323トン)であった(表6)。

体長のモード(9.5~10cm)は昨年より大きく、肥満度も高かった(表1, 2)。

今年のマイワシ漁獲量は、マシラス漁獲量の低迷から、少ない見込みで、伊勢湾
では今のところまとまった漁獲はなく、その状況は継続すると推察される。来遊資
源を大きくしてから漁獲することが今年も効果的と考えられる。

一方、カタクチイワシは、過去に比べてサイズが大きいため、これ以上大きくし
て漁獲するメリットは少ない。過去の傾向から8月中旬には産卵を終えた群は、湾
外へと移動することとなるので、卵を産ませつつ適度に漁獲していくことが資源の
有効利用につながると考えられる。

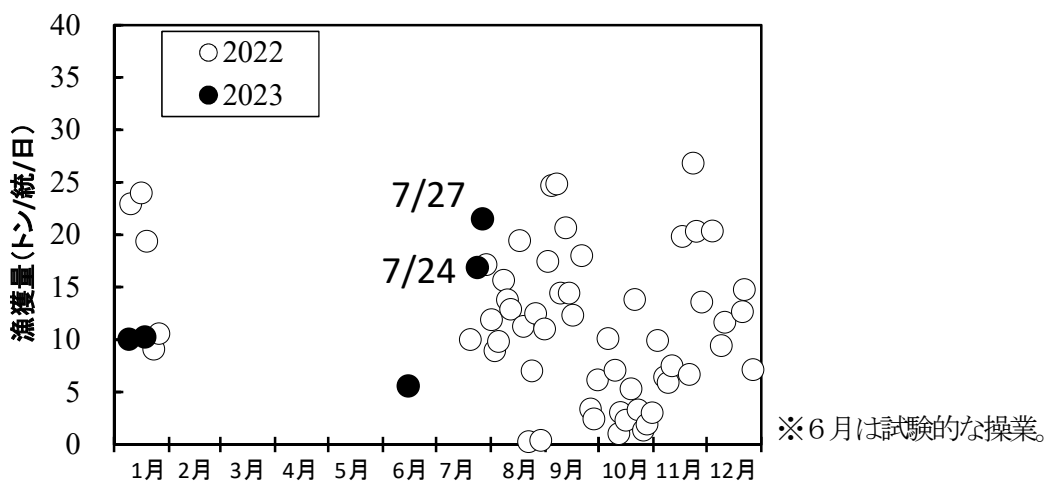


図7 カタクチイワシのCPUE

表1 カタクチイワシの体長組成

<前年>		<今回>	
体長範囲 (cm)	2022年7月20日 上野間	体長範囲 (cm)	2023年7月24日 空港西
~4		~4	
4.0~4.5		4.0~4.5	
4.5~5.0		4.5~5.0	
5.0~5.5		5.0~5.5	
5.5~6.0		5.5~6.0	
6.0~6.5		6.0~6.5	
6.5~7.0		6.5~7.0	
7.0~7.5		7.0~7.5	
7.5~8.0		7.5~8.0	
8.0~8.5	3	8.0~8.5	
8.5~9.0	68	8.5~9.0	10
9.0~9.5	99	9.0~9.5	79
9.5~10.0	26	9.5~10.0	100
10.0~10.5	4	10.0~10.5	11
10.5~11.0		10.5~11.0	
11.0~11.5		11.0~11.5	
合計	200	合計	200

表2 カタクチイワシの肥満度

<前年>		<今回>	
肥満度	2022年7月20日 上野間	肥満度	2023年7月24日 空港西
~5		~5	
5.0~6.0		5.0~6.0	
6.01~7.0		6.01~7.0	
7.01~8.0		7.01~8.0	
8.01~9.0	1	8.01~9.0	
9.01~10.0	25	9.01~10.0	
10.01~11.0	117	10.01~11.0	3
11.01~12.0	56	11.01~12.0	22
12.01~13.0	1	12.01~13.0	32
13.01~14.0		13.01~14.0	3
14.01~15.0		14.01~15.0	
15.01~		15.01~	
合計	200	合計	60

表3 渥美外海のカタクチイワシ卵採集数(15点合計) ※2022年9月の調査定点は3定点。(単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2016	0	0	0	50	27	24	93	10	2	1	0	0	207
2017	欠測	0	2	208	14	147	178	11	4	0	0	0	564
2018	0	0	72	102	25	144	154	0	欠測	0	0	0	497
2019	0	0	62	39	57	29	97	58	54	0	0	0	396
2020	0	0	0	1	0	116	30	89	11	13	3	0	263
2021	0	0	24	46	25	186	88	25	17	0	0	0	411
2022	0	欠測	23	1	203	212	247	351	5	0	0	0	1,042
2023	0	0	0	1	3	82	130						216
10年平均	0	0	112	164	98	138	120	69	39	22	1	1	760

表4 伊勢湾のカタクチイワシ卵採集数(15点合計) (単位:個)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2016	-	-	-	0	1,329	1,236	748	1,508	132	248	108	-	5,309
2017	-	-	-	0	17	29	215	494	2	1	1	-	759
2018	-	-	-	0	438	65	360	70	欠測	41	62	-	1,036
2019	-	-	-	0	70	2,518	2,593	627	52	37	118	-	6,015
2020	-	-	-	506	6,126	4,561	1,442	4,698	735	211	6	-	18,285
2021	-	-	-	2,985	1,227	2,258	1,765	2,607	746	212	25	-	11,825
2022	-	-	-	559	1,624	756	2,522	2,575	435	462	336	-	9,269
2023	-	-	-	0	132	3,256	2,004						5,392
10年平均	-	-	-	406	1,155	1,304	1,517	1,541	347	167	176	-	6,579

表5 愛知県シラス類漁獲量 ※7月28日時点 (単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2016	11	0	94	1,210	691	33	628	136	134	1,683	1,871	636	7,127
2017	5	0	0	885	2,247	0	11	38	31	172	85	104	3,579
2018	0	0	97	957	1,917	9	66	379	553	797	295	660	5,730
2019	0	7	389	676	1,472	1,349	884	1,119	1,514	45	9	302	7,767
2020	0	10	219	428	658	1,629	590	1,933	131	493	148	492	6,731
2021	0	2	101	1,295	631	676	392	48	1,098	1,397	743	317	6,700
2022	0	1	3	253	1,150	831	9	407	82	158	4	335	3,232
2023	145	0	10	194	243	595	102						1,287
10年平均	2	2	91	800	1,652	689	289	541	563	747	599	429	6,403

表6 愛知県カタクチイワシ漁獲量 ※7月28日時点 (単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2016	85	0	14	0	851	5,944	6,352	1,705	2,481	351	504	1,146	19,434
2017	15	21	62	23	194	3,039	2,659	1,725	1,038	340	583	346	10,045
2018	0.3	7	0	12	33	2,795	1,654	945	1,294	149	13	40	6,943
2019	172	38	32	2	0	1,339	4,128	1,692	1,432	2,564	803	515	12,717
2020	4	35	27	0	0	0	2,698	2,115	1,620	2,924	1,920	2,117	13,462
2021	302	48	0	0	0	0	691	1,062	719	766	1,674	1,593	6,853
2022	505	0	0	0	0	0	532	2,453	3,462	1,118	1,055	1,044	10,169
2023	81	0	0	0	0	11	908						1,000
10年平均	176	37	14	82	215	1,895	3,323	2,377	2,063	1,270	1,260	1,011	13,723

表7 愛知県マイワシ漁獲量 ※7月28日時点 (単位:トン)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
2016	74	0	0	0	44	551	1,255	5,255	4,216	3,994	1,379	672	17,440
2017	0	0	0	0	181	1,380	6,258	5,153	4,497	5,445	3,311	1,888	28,114
2018	61	0	0	0	0	2,605	5,555	4,999	4,701	2,944	1,103	2	21,970
2019	210	40	4	0	0	1,311	2,634	3,886	1,417	152	256	7	9,917
2020	0	0	0	0	0	0	3,502	1,995	2,351	174	15	5	8,042
2021	0	0	0	0	0	0	6,128	4,125	3,476	703	35	5	14,471
2022	0	0	0	0	0	0	2	1,666	179	791	52	0.15	2,690
2023	0	0	0	0	0	0	0						0
10年平均	42	12	0	0	23	596	2,672	3,130	2,487	1,751	799	333	11,846